

- 問1 円安になることで利益が増えやすくなる、海外へ製品を販売している企業を何という？
- 問2 景気の悪化やデフレからの脱却を目指し、市場への資金供給を増やす政策を行う中央銀行を何という？
- 問3 円安によって海外からの資源や食料品の購入コストが引き上げられ、家計に負担をかける要因となる経済現象は何ですか？
- 問4 日本銀行が政府の銀行として管理する、国の税収などを指す公的な資金を何という？
- 問5 お金に余裕がある人から、必要としている人へ資金を融通する仕組みを何という？
- 問6 日本銀行が日本で唯一発行を許可されている、紙幣（日本銀行券）を発行する銀行としての役割を何という？
- 問7 日本銀行が物価を安定させ、経済を円滑に動かすために、金利の操作などを行って調整することを何といいますか？
- 問8 円高になると、原材料や商品を海外から安く仕入れられるため、経営にプラスの恩恵がある企業を何という？
- 問9 円安が進んだとき、海外での売上を日本円に換算した際の受け取り金額が増加し、利益を得やすくなるのはどのような企業ですか？
- 問10 市場の需給によって為替レートが変動する仕組みを何という？
- 問11 日本銀行がかつて金融政策の手段として用い、市中銀行への貸出金利の基準としていた金利を何という？
- 問12 民間銀行の経営が行き詰まった際、日本銀行が資金を貸し出すことで連鎖倒産を防ぐ役割を何という？
- 問13 銀行が預金を受け入れ、それを貸し出すことを繰り返すことで、社会全体で通貨の量が増える仕組みを何という？
- 問14 外国の通貨に対して、日本円の価値が相対的に上がることを何という？
- 問15 日本銀行が景気調整のために市中銀行との間で行う、債券の売買による金融政策を何という？
- 問16 継続的に物価が下がり続け、相対的にお金の価値が上がってしまう経済状態を何という？
- 問17 円高によって収益が悪化しやすい、製品を海外へ売る産業を何という？
- 問18 日本円と外国の通貨を交換する際、1単位あたりの円の価値が下がっている状態を何という？
- 問19 日本銀行が一般の銀行から預金を預かることで、銀行にとっての銀行として機能していることを何という？
- 問20 景気が悪化している際に、日本銀行が国債を買い入れて市場に資金を供給することで下げようとするものは何？

答え合わせ・解説

問1	答え 輸出企業	円安になると、海外で販売する製品を同じドル価格で売ったとしても、日本円に換算したときの売上高が増えます。また、価格を下げて販売しやすくなるため売れ行きも良くなり、自動車や電機などの輸出企業にとっては追い風となります。
問2	答え 日本銀行	日本銀行は、日本で唯一の紙幣発行権を持つ「発券銀行」であり、「政府の銀行」として国庫金の出納を扱い、「銀行の銀行」として一般の金融機関へ資金の貸し出しを行います。景気が悪い時は金利を下げるなどして、世の中に出回るお金の量を増やす政策を実施します。
問3	答え 物価	円安になると、海外から輸入する品物の価格が日本円換算で高くなります。このコスト増を避けるために販売価格が引き上げられ、結果として国内全体の物価が上昇します。これが家計を圧迫する大きな要因となります。
問4	答え 国庫金	国庫金は、私たちが納めた税金や国が調達した借金などを指し、日本銀行内の口座で管理されています。国が道路を作ったり公務員に給与を払ったりする際は、この口座から必要な金額が引き出され、経済活動に使われます。
問5	答え 金融	預金者からお金を預かり、それを企業や個人へ貸し出す銀行などの金融機関がこの仲介役を担います。お金の貸し手は利息を受け取り、借り手は事業や購入のために資金を得ることで、経済活動が活発になります。
問6	答え 発券銀行	日本銀行は日本で唯一の「発券銀行」として、日本銀行券を製造・発行する権限を持っています。私たちの手元にあるお札はすべて日本銀行から供給されており、信用ある通貨として全国で通用しています。
問7	答え 金融政策	金融政策は、景気の加熱や不況に対処するための手段です。景気が良い時は金利を引き上げてお金の貸し出しを抑制し、逆に不況の時は金利を引き下げてお金が回りやすいように調整します。この操作によって物価を安定させ、経済が順調に発展するように支えています。
問8	答え 輸入	円高になると、海外の商品を少ない日本円で買うことができます。これにより、燃料費や原材料費のコストが下がるため、輸入企業はコスト削減の恩恵を受けることができます。また、輸入品の価格が安くなれば、家計にとっても生活費を抑えられる効果があります。
問9	答え 輸出企業	円安になると、海外で商品を販売して得た外貨を日本円に替えた際、以前より多くの日本円を受け取ることができます。そのため、自動車メーカーや電機メーカーなど、海外での売上比率が高い輸出企業にとっては、業績が向上する追い風となります。
問10	答え 変動相場制	1973年以降、主要国は通貨の交換比率を市場の需給関係に応じて毎日、毎時変動させる変動相場制へ移行しました。これにより、各国の経済情勢や金利差、政治状況によって為替レートが柔軟に動くようになっています。
問11	答え 公定歩合	日本銀行が公定歩合を引き下げると、銀行が日銀から資金を借りやすくなり、結果として銀行から企業や個人への貸出金利も下がるため、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が増加します。逆に引き上げるとお金の流通量が減る仕組みです。
問12	答え 最後の貸し手	民間銀行同士でも資金の貸し借りができない異常事態において、日本銀行が資金を貸し出すことで破綻を回避させます。これが「最後の貸し手」としての機能です。この存在があることで、預金者は安心して銀行にお金を預け続けられます。
問13	答え 信用創造	銀行に預けられたお金の一部が借り手へ渡り、その借り手が別の銀行に預け、その銀行がまた貸し出す…という過程を繰り返すことで、元の現金以上の預金が生まれます。このように金融機関が預金を生み出すことを信用創造と呼びます。
問14	答え 円高	円高とは、例えば「1ドル=100円」だったものが「1ドル=80円」になるような状態です。これは以前よりも少ない円で外国の製品を購入できることを意味します。
問15	答え 国債	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れると、銀行の資金が増えて市場のお金の流れが活発になります。逆に、日本銀行が国債を売ると、市中銀行の資金が日本銀行へ移動し、市場のお金の量が減る仕組みです。
問16	答え デフレーション	デフレーションでは、モノの価格が下がり続けるため、企業は売上が減少します。また、お金の価値が上がるため、消費者は将来の値下げを期待して買い控えを行い、さらなる不況を招く悪循環に陥りやすいのが特徴です。
問17	答え 輸出	円高になると、海外で販売する製品の現地通貨建て価格を高く設定せざるを得ず、販売量が落ちるか、同じ価格で売れば円換算の利益が減るという二重の苦しみを味わいます。これにより、輸出産業の収益は大きく悪化しやすくなります。
問18	答え 円安	円安とは「1ドル=100円」から「1ドル=120円」へ変化するように、外貨を買うために必要な円の量が増えることを指します。これは、円が外貨に対して安くなっていることを意味します。
問19	答え 発券銀行	一般の銀行は、日本銀行に当座預金口座を持っています。日本銀行は銀行の銀行として、民間銀行からの預金を受け入れるだけでなく、銀行間での資金決済や一時的な資金不足に対する貸し出しを行っています。これにより、金融機関全体の安定が保たれています。
問20	答え 金利	日本銀行は国債を買い入れることで銀行の持つ資金を増やします。すると、銀行は貸し出すおみに余裕ができるため、企業や個人へのお金の貸し出しを促進しようと金利を下げます。金利が下がると借金がしやすくなるため、投資や消費が活発になり景気の回復が期待されます。